

のぼりべつ クマ牧場 観光客に胆のろ販売

飼育していたヒグマを大量処分していた「のぼりべつクマ牧場」（北海道登別市、登別温泉ケーブル経営）が、けがなどで死んだクマから胆のろを取り出し、乾燥させたらうで観光客に売っていたこと

が、十五日、明らかになった。

同牧場の渡辺敬一事務長によると、牧場でけがなどで死んだクマ約二百五十頭のうち、約百頭から牧場内で胆のろを取り出し、同事務長が事務室などで乾燥さ

せた。「クマの胆（い）はないか」と事務所を訪ねて来た観光客に、十五年ほど前からひとかたまり（二十—三十多）十萬—十五萬円で、計約三十個を売ったという。売った相手の記録などはないとしている。

販売したもの以外の大半の胆のろは、質が悪かったため捨て、数グラム程度の小さいものは無償で観光客に提供したこともあるという。約一年前に網走支庁遠軽町で処分した九十五頭に

つたことは認めているが、腐ってしまったため全部捨てたとしている。

渡辺事務長は「もともと腹痛の社員などに渡す自家用にと考えていたが、観光客に頼まれて、胆のろがある時は売った。牧場の維持費にあてるつもりはなく、もし効くのであれば人助けにもなると思った」と言っている。